



## 1. 新しい目標に向かって

新年の始まりは、誰にとっても物ごとの取り組みへの新たな期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。それだけに、今年はどのような自分でありたいか、そのためにどのような役割を果たすべきか、を自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できて良かった！」という自らの活動の成果を実感するためには、目標を持ち、その実現に向けて一杯取り組む過程が大きく関係します。私たちは、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。目標を設定することなく漫然と努力しているだけでは、やる気も高まりません。

そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志を持つことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にする訳ではありません。しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ満足感は、目に見える以上に本人にとってやりがいをもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できるに越したことはありませんが、好ましい結果が得られないことで努力がすべて無駄になるとは言い切れません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信をはじめ、次への挑戦につながる意欲も手にできるのです。

このように目標を持つことには大きな意味があります。学ぶことは、まねることと言われますように、学ぶ環境にお手本となる存在は、欠かせません。めざす姿が見えることで、学びが実現するとも言えます。それだけに、身近な存在である私たち大人は、良きお手本としての役割が求められます。子どもは大人の鏡であるとも言われます。

新学期を迎え、私たちが大人として、教師として鏡たる子どものめざす姿であることを意識し、目標をもって前向きに取り組む姿勢を示すことで、その役割を果たしていきたいと思えます。

## 2. 始業式でのお話

今年の箱根駅伝は、青山学院大学が2年ぶり6回目の総合優勝を果たしました。最終の10区で区間新記録を出した3年生の選手は「9区の選手が区間新記録で来たので、自分も負けていけないという思いで走った。前は4位で悔しいゴールだったが、こっちは1位といういちばんうれしい形でゴールテープを切ることができてよかった」と優勝を振り返りました。3学期はこの駅伝に例えると、最終の10区にあたるのではないのでしょうか。3学期はとても短いですが、1年間の総仕上げをする大事な学期ということは、終業式でもお話ししたところです。

しかし、一方、報道では、大阪府の吉村知事は新たな変異株「オミクロン株」の影響で感染者が急増し、「(感染拡大の)第6波の入り口にいる」との認識を示しています。また、沖縄・広島・山形の3県が「まん延防止等重点措置」が適用される見込みです。この3学期、最後まで何が起こるかわかりません。こんな時だからこそ、みなさんには、状況を的確に判断し、変化に対応できる人になって欲しいと思えます。

油断しないように体調を整え、私たちが安心して学校生活を送ることができるように、密閉、密集、密接、いわゆる「3密」を避け、「手洗い・消毒・マスクの着用」など、私たちができる基本的な感染予防対策を、3学期も徹底して取り組みましょう。まずは、1人ひとりが駅伝選手のように全力を出し切って、1日1日をつなぎ、3年生は卒業式、1、2年生は修了式をめざして欲しいと思えます。